

横川っ子だより



きずな
絆 ~つながり~

コロナではじまり、コロナでおわる、そして、コロナはつづく・・・

コロナ禍の年、私たちの生活は一変しました。長期の休校や外出自粛、行事の中止、集会の制限など、学校生活においても不自由で窮屈な生活が続きました。

その一方で、「うつらない・うつさない」取り組みが、子どもたちのきまりやルールを守ろうとする行動、自分の身は自分で守ろうとする行動に変わっていき、新しい生活様式が生まれる中で、新たなチャレンジをして乗り越えることができました。変化の激しい一年、子どもたちの生き抜く力に、私たちも希望をもらったのではないのでしょうか。

今から10年前の2011年3月11日に起きた東日本大震災は、今でも記憶に残っています。その日、普段どおりの生活を過ごしていたところ、14時46分、突然、大きな地震が起きました。そして、黒い津波が町を壊し、人をのみ込み、多くの尊い命が亡くなりました。黒い津波の正体は、海の底にたまった「ヘドロ」でした。

「いつか起きる」と考えると、防災に対して受け身の気持ち（人任せ）になりますが、「明日起きてもおかしくない」「今日起きてもおかしくない」と考えると、前向きに防災対策に動き出さなければならないという気持ち（自分事）になります。

横川小学校は、風水害や地震で家屋の倒壊などが発生した場合の「避難所」として、また、災害時に一時的に避難する「応急避難場所」として指定されています。

もし、今日、地震が起きたら、私たちはどう行動すればよいのでしょうか。3密を避けるため、体育館以外の滞在スペースも確保する必要があります。

また、地域の人が集まってきたときに、防災設備はどこに何があるのか、どこに避難すればよいかなど、だれでもわかる案内表示も必要な気がします。

今後、横川小学校は、地域とともに、防災学習に取り組み、命を守るために、みんなと一緒に生き延びるために、さらに学校と地域のつながりを大切にしていきたいと思えます。



ひがしにほんだいいしんさい ねん ひとびと ふっこう む まえむ
東日本大震災から10年、人々は復興に向けて、前向きにがんばっています。そのとき、
みんなのこころを強くしたのは、「絆きずな」（つながり）という言葉でした。絆きずなという漢字には、
いと という字が含まれています。糸は細くて切れやすいと思われませんが、糸は織おり維いをまと
めてねじることにより、とても強く仕上げられています。

かしゅ なかしま うた いと うた
歌手の中島みゆきさんの歌に、「糸」という歌があります。

たて いと よこ いと わたし
縦の糸はあなた 横の糸は私
お めの だれ
織りなす布は いくつか誰かを
あたた
暖めうるかもしれない



ひと いと たと であ かろうせい うた であ けっ どうにん
人を糸と例えて、「出会い」の可能性を歌っています。出会いは決して当人だけのものでは
なく、だれ きのぼう だれ かし つた ひと ひと
誰かの希望となることもあるのだと歌詞から伝わってきます。人と人がつながると、
きぼう か きも
希望が変わっていく、そんな気持ちになります。

さいご よこがわ こおうえんたい とうろく ちいき みなさま いちねん めん
最後に、横川っ子応援隊にご登録いただいた地域の皆様には、この一年、さまざまな面か
らあたたかいご支援をいただきました。

とうげこう みまも
登下校の見守りでは、こ おうだんほどあ あんぜん わた た こえ
子どもが横断歩道を安全に渡れるように立って声をかけてく
ださり、あんしん とうげこう
ださり、安心して登下校することができました。

かんきょうせいび
環境整備では、じよそうさぎょう じゅもく えだき ゆうぐ めん がっこう
除草作業や樹木の枝切り、遊具のペンキ塗りなど、学校だけではでき
ないことをしていただき、がっこう あk
学校が明るくきれいになりました。

ちいき かんきょうがくしゅう
地域の環境学習では、つか す てったん つか げんきだま つく よしいけ な
入れ、すいしつかいぜん ちょうせん こめづく いねが たいげん
水質改善に挑戦しました。米作りでは稲刈り体験をさせていただきました。そして、
かんさついけ ほたる たまご ほうりゅう かんさつ
観察池で蛍の卵を放流し観察させていただきました。

さくひんでんじ
作品展示では、とうげい もっこう のうめん お ほな さくひん
陶芸、木工、能面、パッチワーク、押し花アートなど、さまざまな作品
を ていきょう こうない てんじ
ご提供いただき、校内に展示をさせていただきました。

みなさま ほんとう
皆様、本当にありがとうございました。